

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	言の葉きっず			
○保護者評価実施期間	R8年1月19日		～ R8年2月16日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	R8年1月19日		～ R8年2月16日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	6名の職員のうち、3名が言語聴覚士のため、より専門的な視点で評価ができ、個別・集団、生活に即した支援ができること。 教員免許を所持している職員や精神保健福祉士など他職種がいることにより、様々な視点で支援ができています。	週2回のケースカンファレンスや様々な会議を通して、それぞれの視点から子ども達一人ひとりの支援について考える時間を設けている。	・各職員が共通の知識、技術を取得するために、疾患に対する基礎知識、評価、訓練についてなど定期的な勉強会の開催を行なっていく。
2	法定研修のみではなく、週2回のケースカンファレンスや週1回の危険予測活動など子ども達の支援、普段の支援を振り返る会議を設けている。	年間で研修会の計画を立て、遂行している。	基礎知識、評価、支援、環境調整といった勉強会など会議の充実、質の向上を図る。
3	家族面談(個別)を積極的に行っており、希望者は月1回は必ず面談ができるよう調整している。	毎月中旬にご家族へアンケートで家族面談の希望を聞き取り、日程の調整を行っている。	面談の内容に関する保護者アンケート、満足度調査を行うなどして内容の充実にも努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域とのつながりやつながりを作るためのイベントが少ない。	・事業所内の支援に目が向き、地域支援への意識が薄かった。	・利用児童が暮らす地域の学校や児童クラブ、放課後等デイサービスなどと協力し、一緒に活動をするイベントを企画、運営していく。
2	・小学校低学年の利用児童が中心のため、中学校、高校、就労など移行支援の経験が少ない。	・開所して間もないため、新規利用児童が小学校低学年が多くなっている。	・中学生、高校生の積極的な受け入れや他の形での交流、支援を検討していく。
3			